## 植物観察 (8)

フデリンドウ

新型コロナウイルスの影響で大変な時期ですが、玉川上水の植物はいつも通りに春を迎えました。３月末の季節外れの雪が積もったにもかかわらず、フデリンドウ、イチリンソウ、ニリンソウのほか、東京では絶滅危惧種とされるアマナやヒメニラなどが見られました。麻布大学いのちの博物館上席学芸員である高槻成紀先生は、玉川上水はレヒュージア（避難所）であると表現されています。希少な植物の存在を確認して、まさにその通りだと感じました。

この冬、陣屋橋から小金井橋の間において、サクラ以外の樹木が皆伐されました。開けた法面に巨大なケヤキの切り株がずらりと並んでいます。木々を伐採することは、その下に生育する植物にも少なからず影響を与えます。皆伐の結果、この地域の植物がどう変化するのか、レヒュージアとしての役割を維持していけるのか、観察を続けていきたいと思います。

＜ O.Y. ＞

# ほとんどの木が切られてしまった玉川上水

## 小金井橋から東側は緑陰がなくなった

夏の気温を遮って、空気を浄化し、北風を遮って、騒音を遮ってくれていた樹木。そしてなにより生態系を守ってくれていました。いくつもの切り株が無残な姿で立ち並んでいます。法面を守っていたケヤキの根が死んでしまったら、法面が崩れないか心配です。

P2、３の高槻先生の論文（ご指摘）については今後、小金井市と意見交換する予定です。次号でご報告できればと思っています。

お腹すいたよ～。ここではもう生きていけない

玉川上水
# こだま通信
2020 年 5 月 20 日 No. 8
発行：小金井玉川上水の自然を守る会 代表：橋本承子
E-mail：kodama2107kodama@yahoo.co.jp
https://kodama201803.jimdo.com

# ほとんどの木が切られてしまった

玉川上水 小金井橋下流 桜並木復活事業のために伐採されました。